

「新たな扉」

「魂」を込めた 「本物」を！

◎ 株式会社吉田設計



熊本地震災害復旧工事について

～H28.4.14 4.16 熊本地震～

平成28年熊本地震で、多くの施設が被災にあいこれまでにない困難に直面しました。

震災直後の4月17、18、19日の3日間、まだ余震の続く中、熊本県内の保育園等、12ヶ所を訪問しました。「待ってたとよー」と涙ながら訴えられ、園長(理事長)先生方は、大きな災害を前に途方に暮れられてました。

まだまだ、余震が続く中、真っ先に園に向かい片付け、炊出し、出来る範囲で保育されてる光景を見て人の「心の強さ」を知りました。

「私たちが、お手伝いいたします。一刻も早く保育が出来るよう力あわせて頑張りましょう！」

と、設計者・現場担当と力を合わせて、掛け持ちで、現場という現場をライフラインが途絶えた中、訪問してまわりました。

一度外出すると、飲まず食わず、トイレは断水で使えない状態でした。

道路は渋滞で通行止めばかり、いつ辿り着くか予測不可能、こんな経験は誰もが初めてだった事でしょう。渋滞の中、目にした光景は、悲惨でした・・・(それは、生理現象にSTOPがかかる程)

古い木造住宅はほとんどが崩壊、高い建物は傾き、潰れ、

それは、益城方面に近づくとさらに、景色は一変して変わりました。

全国ニュースで放映されてるのは、ほんの一部でしかありません。

やっとの思いでたどり着くと、そこに待っていたものは、足の踏み場のない保育室でした。

そして、どの園の先生も「ここ、大丈夫かな？やっていけるの？」か、尋ねられました。

吉田代表(一級建築士)が、診断します。

まわりながらも、常に余震で建物が揺れ、目の前で壁に亀裂がはいる、そういう状況での作業でした。

「ここと、この部屋とはつかえます、大丈夫です。」と診断し、先生方はホッと安堵されます。

吉田代表の判断と指示を受け、再開の目処をたてられます。これは信頼関係でしかありません。

そして、直ぐ様かけつけた事に深く感謝されました。

3日間で12園、訪問しましたが、どこも共通して、鉄骨造の柱・梁はびくともせず、

ガラス(強化ガラス)については、一枚も割れてませんでした。

前震・本震、震度6、7強と波状的に襲ってくる地震動の被害を受けても、

弊社の設計した建物は崩れませんでした。

今、災害復旧に向け国の実施調査(机上調査)が実施されています。
4月の震災から半年近くたち、やっと最終段階までたどり着こうとしています。
弊社は復旧工事に関する資料作成作業を行っています。
資料は比較見積もり、写真等ですが、弊社は写真(1園に500枚~600枚)すべてに番号つけ、図面にも計上し、
写真については、壁のクラック、クロス損傷等はメジャーを添え、被災内容が判読できるよう撮影しました。
調査方から、丁寧でわかりやすいとお褒めの言葉をもらい、弊社の事務作業の質の高さを誇れました。
大量の資料持参し、査定当日、後は、吉田代表が質問に受け答えし工事内容を説明いたします。
当日、その場の質疑応答で、査定額が提示確定されるが故、資料とやりとりが全てです。
被害案件 40園/10園は弊社が担当、結果:10施設に出席、同行し、ほぼ査定額は満額でした。
弊社がどれだけ施設と関わってきたか、歩んできたかが、伺えます。

震災は、再起に向けて戦いです。その時、皆で合わせた「力」こそが、「本物」です。
その現場にかけつけた建築関係の方々、自分の事を後まわしての勇氣ある行動。
それは、自分が建てた建物への **責任** です。
これこそが「プロ」！ 真の「プロフェッショナル」です。
そして、私たちは、かけがえのない「信頼」を得ました。

今では、5年後、10年後の新たな夢への実現へ向けて相談をされます。
みなで、前を向いて進んでいます。
弊社も、今年7月に株式会社となり「**新たな扉**」を設け「**新たなステージ**」へと進みました。
この震災で得た教訓を、「**強み**」とし、続く未来へとつなげていきます。

おまかせ下さい。

私たちの「**強さ**」「**力**」は「**本物**」です。

「**心**」に残る建物を、「**魂**」を込め 築きます！